

ファイルコンバータ

NR-CNV4 ver 1.0

運用マニュアル

はじめに

本書は、医療用検査機器から出力される画像データを、圧縮・変換することを目的とした「ファイルコンバータ NR-CNV4」の導入方法、運用方法をまとめたものです。「ファイルコンバータ NR-CNV4」を用いた運用の流れを簡易に記述しています。

■ 対応機種とバージョン

本書の記述が対応する機種、バージョンは次のとおりです。

機種	バージョン	出荷時期
ファイルコンバータ NR-CNV4	Ver1.0	2022年12月

■ 関連マニュアル・資料

「NR-CNV4 クイック・スタート・ガイド」

■ 改定履歴

No.	改定内容	日付
1	新規	2022年11月28日
2	命名規則 記述例追加	2023年4月8日

目次

1.	概要	4
1.1	「ファイルコンバータ NR-CNV4」とは	4
2.	付属品のご確認	5
3.	各部の名称と機能	6
3.1	正面	6
3.2	背面	7
4.	設置方法	8
4.1	設置方法	8
4.2	院内 LAN 構成例	8
4.3	データの流れ	9
5.	初期設定	10
5.1	初期設定用の PC の用意	10
5.2	初期設定用の PC の IP アドレスの設定	10
5.3	Web ブラウザの起動	11
5.4	基本設定	12
5.4.1	IP アドレスの設定	12
5.4.2	NTP(時刻同期)の設定	12
5.4.3	設定の保存	12
6.	コンバート設定	15
6.1	コンバート設定	15
6.2	コンバート設定を有効にする	16
6.3	ファイル受信フォルダ	18
6.4	ファイル転送先フォルダ	18
6.5	画像サイズ変更	19
6.6	フォーマット変換	19

6.7	JPEG 品質	19
6.8	PDF 解像度	19
6.9	回転	19
6.10	命名規則変更	20
6.11	命名規則の設定例	22
6.12	実際の検査機器の入力ファイル命名規則のサンプル	25
7.	設定確認	26
8.	管理	27
9.	運用	29
10.	FAQ こんな時は	30
10.1	初期設定時	30
①	設定用 PC の Web ブラウザで、本機の設定画面に接続できない	30
②	再起動後、Web ブラウザから本機に接続できなくなった	31
10.2	運用時	31
①	本機起動後、前面の PWR LED が赤く点灯している	31
②	検査機器から本機にデータを送れない	31
③	本機から電子カルテ／ファイリングシステムにデータが出力できない	32
④	本機のブザーが鼓動し、前面の LED (T1～T4) が赤く点灯している	32
10.3	その他	33
①	エラーが出ているが、原因が特定できない	33

1. 概要

1.1 「ファイルコンバータ NR-CNV4」とは

「ファイルコンバータ NR-CNV4」（以降、本機）は、医療用検査機器から出力される画像データを、圧縮、変換する装置です。

医療現場における各種検査機器は、高画質・高精細なデータを出力するよう進化を続けています。一方で既存のファイリングシステムや電子カルテでは、その画像サイズの大容量化に伴い、「読み出しに時間がかかる」、「データベースが肥大化して扱えない」といった扱いづらさの声も聞かれます。加えて、検査機器の多様化により、PDF によるデータの出力が増え、既存のシステムでは取り込めない場面も増えてきました。本機は、画質の劣化を最小限に抑えつつ画像を圧縮、PDF などのフォーマット変換、ファイル命名規則の変換などを行うコンバータです。

本機は、組み込み機器として設計されており、既存の電子カルテ／ファイリングシステムの LAN に設置していただければ、簡単な設定でコンバート処理を実現できます。既存の各種検査機器、電子カルテ／ファイリングシステムなどに対して改造や仕様変更の必要はありません。

本機1台で最大4台までの検査機器の画像をコンバートすることができます。

[主な機能]

- ・ 画像サイズの変換
- ・ JPEG 圧縮率の変換
- ・ ファイルフォーマット変換
- ・ ファイル名命名規則変換

2. 付属品のご確認

本製品には、下記の付属品が同梱されています。



本体装置 1台



AC アダプタ 6V/3A

※ACアダプタは必ず付属品をご使用ください。(PSEマークつき)

マニュアルは、弊社 Web サイトからダウンロードできます。

https://www.nekorisu.com/nr-cnv4_products.html



本体底面に、下図のようなラベルが貼り付けられています。

型式	NR-CNV4
Ver	1.0
S/N	
IP Address	192.168.11.5
Subnetmask	255.255.255.0

Made in Japan
株式会社 NEKORISU

3. 各部の名称と機能

3.1 正面



	名称	機能
①	電源インジケータ	<p>電源の ON/OFF、エラーの状態を示します。</p> <p>青-点灯 正常に動作しています。 青-点滅 起動中(再起動中) 赤-点滅 致命的エラー発生中 ・本体 IP アドレスの設定エラー ・ネットワーク異常</p> <p>消灯 電源 OFF</p>
②	コンバート処理ステータス T1～T4	<p>最大4台までの検査機器からのコンバート処理 (T1～T4) の状況を表示します。</p> <p>緑-点滅 コンバート処理中 赤-点灯 コンバート中にエラーが発生 ・転送先への接続エラー ・命名規則の不一致</p>

3.2 背面



	名称	機能
①	電源スイッチ	軽く押すと電源が入ります。電源ボタンを押して、約1分後に動作が開始されます。 動作中に押すと、シャットダウン処理が走り、約40秒後に電源が切れます。シャットダウン処理中は、前面の電源インジケータが青く点滅します。
②	DC ジャック	ACアダプタを接続します。
③	HDMI ポート	メンテナンス用です。使用しません。
④	USB ポート	メンテナンス用です。使用しません。
⑤	LAN ポート	LAN ケーブルを接続します。
⑥	リカバリースイッチ	全ての設定内容を、工場出荷状態に戻します。 約3秒以上長押しすることにより、リカバリー処理が走り、本機が再起動します。 本機の IP アドレスの設定などを間違えた際、本機にアクセスできなくなった場合に利用します。

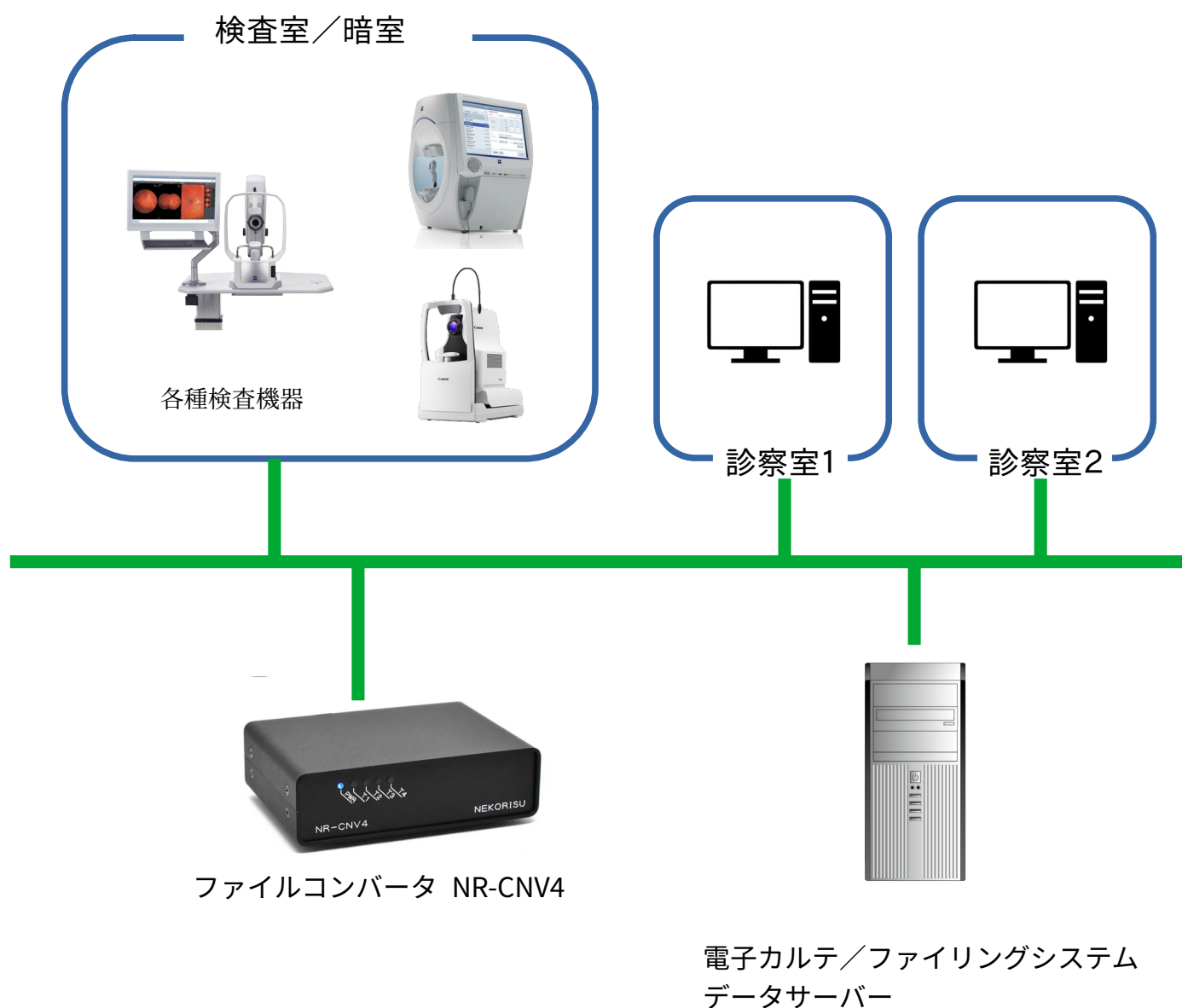
4. 設置方法

4.1 設置方法

本機の設置は、LAN 機能の付いた眼底カメラや、OCT などの従来の検査機器と全く同じです。

IP アドレスを設定した後、院内の LAN に接続し、データの出力先など指定するだけです。

4.2 院内 LAN 構成例



4.3 データの流れ



- ① 検査機器からファイルコンバータ「NR-CNV4」にデータを出力します。
「NR-CNV4」は、「share」とい名前の共有フォルダを公開しています。
その中の「data1」に検査機器からのデータを出力してください。
- ② ファイルコンバータ「NR-CNV4」から電カル／ファイリングシステムに、
コンバートした画像を出力します。
①で受け取った画像に対して、圧縮、フォーマット変換、命名規則変換など、
指定されたコンバート処理を行って、電子カルテ又はファイリングシステム
の公開フォルダに出力します。

※ 上記のデータの流れは、「コンバート設定1」に基づく場合です。

「コンバート設定2」～「コンバート設定4」の場合は、検査機器からの出力先は、「NR-CNV4」の「share」の中、「data2」～「data4」になります。

※ 電子カルテ、ファイリングシステムへの出力先は、後述する設定画面で登録しておきます。
検査機器毎に、出力先のフォルダを指定できます。

5. 初期設定

本機を運用する前に、初期設定を行う必要があります。

初期設定は、Web ブラウザーを介して、対話的に行うことができます。

設定が必要な項目は、

- ① 本機の IP アドレス
- ② コンバートした画像を出力するフォルダの指定
- ③ コンバート内容の詳細

になります。

5.1 初期設定用の PC の用意

初期設定に際して、PC 1台と、LAN ケーブル1本をご用意ください。

それぞれを下記のように接続します。



※ LAN ケーブルで直接接続できます。HUB を介して接続しても構いません。

(ストレート/クロス ケーブル自動判別)

※ 本機の IP アドレスを設定するまでは、院内の LAN 環境に接続することはできません。

IP アドレスが重複し、システムに障害を与える可能性があります。

5.2 初期設定用の PC の IP アドレスの設定

本機は、出荷時に IP アドレスが 192.168.11.5 に設定されています。

従いまして、本機と PC が通信するには、同一セグメントの IP アドレス、つまり、192.168.11.10 など、192.168.11.XX となるアドレスに設定してください。

5.3 Web ブラウザの起動

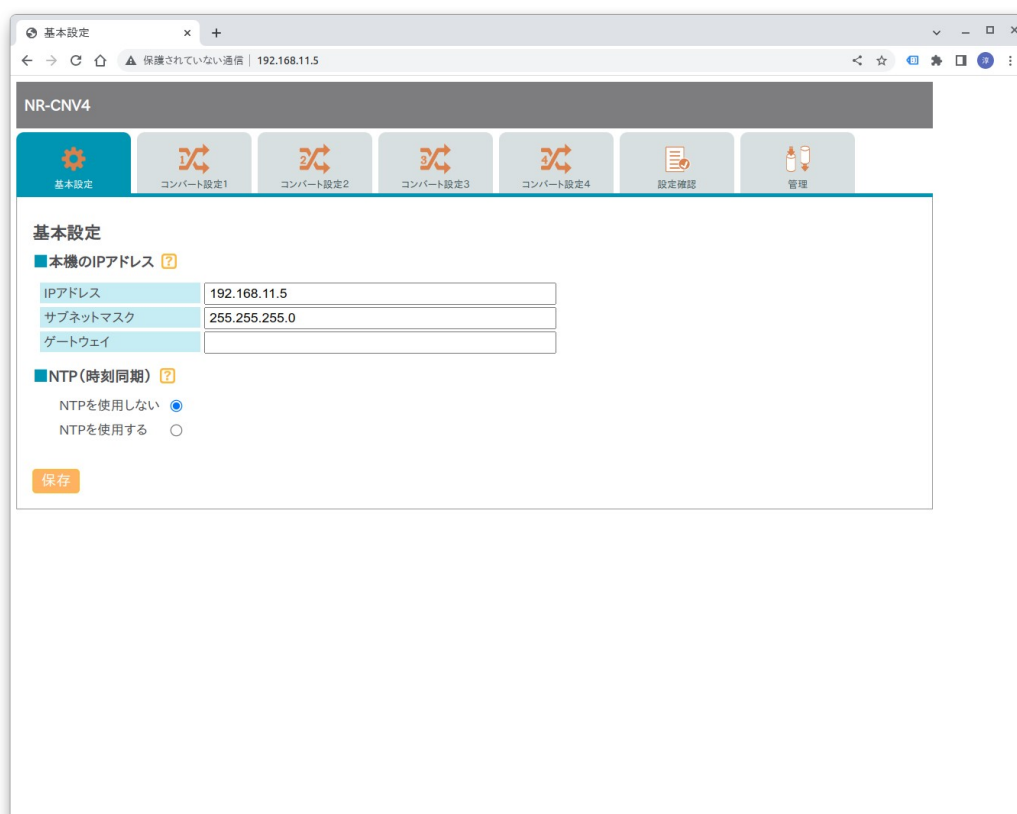
初期設定用の PC でブラウザを起動します。

Chrome、Firefox、Edge など、ほとんどのブラウザが使用できます。

Web ブラウザのアドレスバーに、本機の IP アドレスである 192.168.11.5 を入力してください。



下図のような画面が表示されます。



5.4 基本設定

本機の IP アドレスと、NTP(時刻同期サーバー)を設定します。

5.4.1 IP アドレスの設定

本機の IP アドレスを設定します。院内の他のネットワーク機器と重複しないよう、ネットワーク管理者に確認し、適切な IP アドレスを設定してください。

項目	設定内容
IP アドレス	必須 IP アドレスを設定します。(例:192.168.0.41)
サブネットマスク	必須 サブネットアドレスを設定します。(例:255.255.255.0)
ゲートウェイ	ローカルで運用される場合は空白で構いません。 セグメントをまたがったり、インターネットを介する場合は、正しいアドレスを設定してください。

5.4.2 NTP(時刻同期)の設定

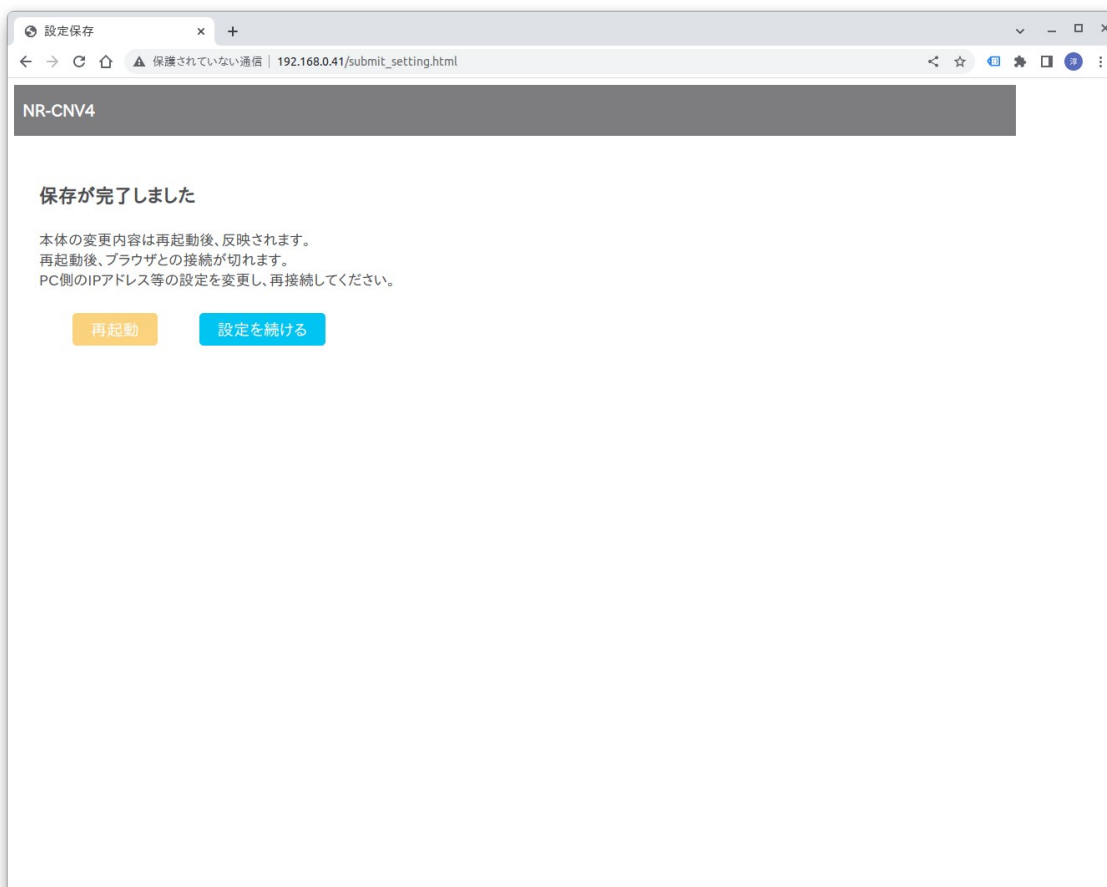
本機は、NTP サーバーを指定することにより、正確な時刻で動作します。
NTP サーバーを使用しない場合、内臓の時計から時刻を取得します。

項目	設定内容
NTP を使用しない	内部の時計で時刻を刻みます。
NTP を使用する	NTP サーバーから時刻を取得します。 NTP を使用する場合、NTP サーバーのアドレスを正確に登録してください。 例) NTP サーバーがローカルにある場合 192.168.0.50 (NTP サーバーのアドレスが 192.168.0.50 の場合) 例) インターネットを介して時刻同期ができる場合 ntp.nict.jp (NICT の NTP サーバーを使用する場合)

5.4.3 設定の保存

「保存」ボタンをクリックします。

保存が完了したことを示す画面が表示され、再起動を求められます。



設定変更した内容は、本機を再起動することにより反映されます。
再起動後、Web ブラウザとの接続は切れます。

IP アドレスを変更した場合、異なるセグメントの IP アドレスに設定した場合は、
設定用 PC のアドレスも、同一のセグメントになるよう、IP アドレスを変更しな
ければならないことに注意してください。

例えば、本機の IP アドレスを、

192.168.0.41

に設定した場合、設定用の PC のアドレスは、

192.168.0.10

などの、192.168.0.XXX となるように変更する必要があります。

参考) セグメントとは。

LAN 上のネットワーク機器は、セグメントと呼ぶグループに分けて管理されています。

例えば、サブネットマスクが 255.255.255.0 の場合、IP アドレスは、

AAA.BBB.CCC.XXX

の AAA.BBB.CCC までが一致する機器同士でしか、通信することができません。

詳しくはネットワーク管理者にご確認ください。

ヒント

本機の IP アドレスの設定を間違えた場合や、設定したアドレスを忘れてしまい、本機にアクセスできなくなった場合は、工場出荷時の設定に戻すことができます。

本体背面の「リカバリーボタン」を3秒以上長押ししてください。ブザーの鼓動の後、本機が再起動され、工場出荷時の設定に戻ります。

工場出荷時の IP アドレスは下記のとおりです。

IP アドレス:	192.168.11.5
サブネットマスク:	255.255.255.0
ゲートウェイ:	設定なし

6. コンバート設定

本機を用いて画像データをコンバートするには、「コンバート設定」において、コンバートの内容を定義する必要があります。

本機1台で最大4台までの検査機器を接続することができます。

検査機器毎に、「コンバート設定1」～「コンバート設定4」に割り当てて設定します。

6.1 コンバート設定

初期設定用の PC で Web ブラウザーを開き、本機の IP アドレスを、アドレスバーに入力します。

表示された画面の上部のタブで、「コンバート設定1」に切り替えます。



タブをクリックして切り替えます。

6.2 コンバート設定を有効にする

「コンバート処理を行う」にチェックを入れ、当該「コンバート設定」を有効にします。設定項目が表示されます。

コンバート設定1

コンバート処理を行う ?

■ ファイル受信フォルダ share/data1 (固定) ?

ログインユーザー ?

パスワード

■ ファイル転送先フォルダ ?

ログインユーザー

パスワード

■ 画像サイズ変更 ?

画像サイズ変更 変更しない

■ フォーマット変換 ?

フォーマット変換 JPEG

■ JPEG品質 ?

JPEG品質 90

■ PDF解像度 ?

PDF解像度 400

■ 回転 ?

回転 しない

■ 命名規則変更 [詳細](#)

入力ファイル命名規則

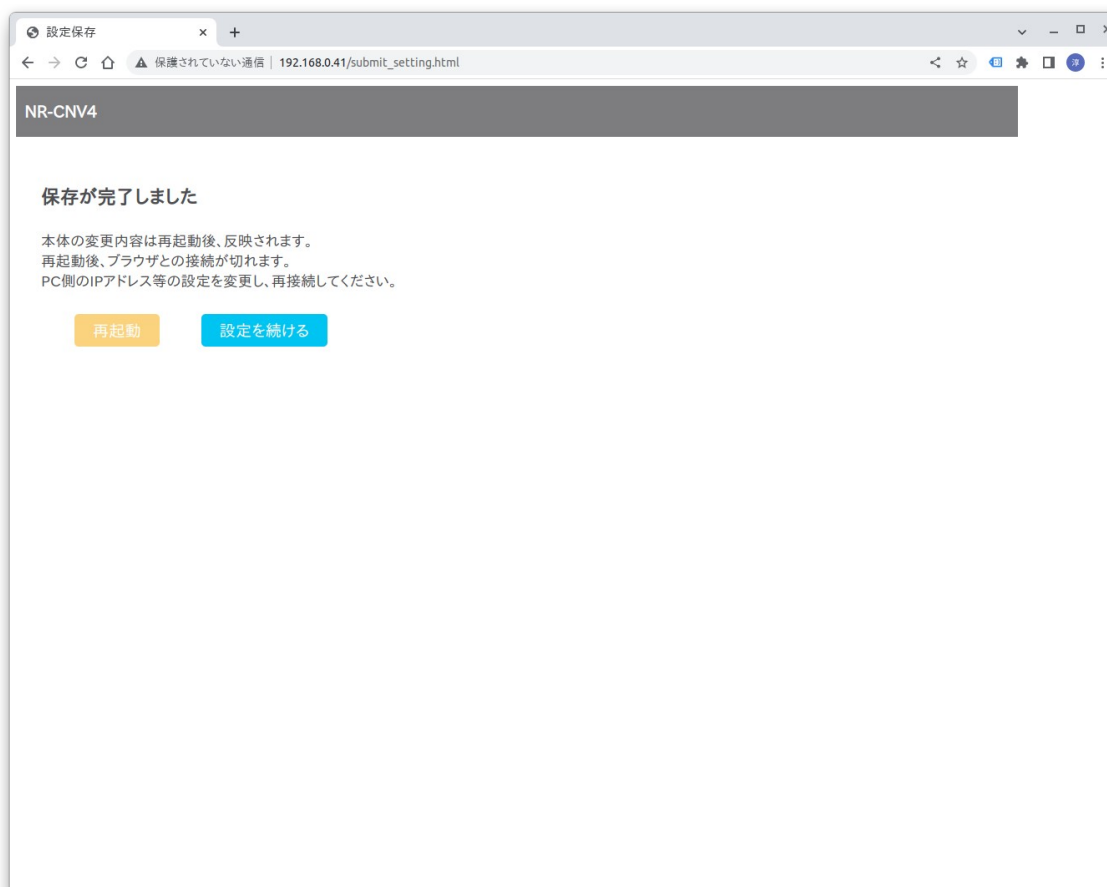
出力ファイル命名規則

保存

各項目を順に設定します。

設定項目毎にある「？」マークをクリックすると、設定内容の説明が表示されます。(命名規則変更は、「詳細」ボタン)

各項目を適宜変更したら、「保存」ボタンをクリックして確定します。
下図のような再起動を求める画面が表示されます。



「再起動」 本機を再起動します。
設定の反映には再起動が必要です。

「設定を続ける」 設定画面に戻ります。
「コンバート設定1」を保存した後、「コンバート設定2」を設定したい場合、再起動せずに設定画面に戻り、設定を続けることができます。
全ての設定を終えた場合には、必ず再起動が必要です。

6.3 ファイル受信フォルダ

本機の共有フォルダを示しています。このフォルダは固定です。

検査機器から、このフォルダにデータを出力するとコンバート処理されます。

例えば、本機の IP アドレスを 192.168.0.41 に設定した場合、

検査機器からの出力先を、

```
¥¥192.168.0.41¥share¥data1
```

としてください。(「コンバート設定1」の場合)

「ログインユーザ」と「パスワード」の欄は、通常、空白で構いません。

本機のこのフォルダは、ユーザー名／パスワードなしのゲスト接続が可能となっています。

但し、最新の OS が搭載された検査機器の中には、ポリシーの制約により、ユーザー名／パスワードなしの接続ができない機種が存在します。

そのような場合は、「ログインユーザー」と「パスワード」に、検査機器に都合のいいユーザーを登録することが可能です。

6.4 ファイル転送先フォルダ

本機でコンバートした画像データを出力するフォルダを指定します。

電子カルテやファイリングシステムの公開フォルダ)を設定してください。

例えば、電子カルテシステムのサーバーが 192.168.0.50 で、公開フォルダが [share/oct] の場合は、

```
//192.168.0.50/share/oct
```

とします。先頭の「//」は必須です。フォルダ名の区切りも「/」で指定します。

(※「¥¥」、「¥」ではないことに注意してください。)

PC 名での指定はできません。必ず、IP アドレスで指定してください。

6.5 画像サイズ変更

画像サイズの変更を設定します。

3900×3900のような大きなサイズの画像を、1900×1900のようなサイズに変更できます。

プルダウンメニューから変更したいサイズを指定します。

項目	設定内容
変更しない	画像サイズを変更しません
%指定	出力画像のサイズを%で指定します。 75%と50%が選択できます。
縦	出力画像の縦のサイズを指定します。 横のサイズは、縦横比を維持して自動的に計算されます。
横	出力画像の横のサイズを指定します。 縦のサイズは、縦横比を維持して自動的に計算されます。

6.6 フォーマット変換

出力画像のフォーマットを指定します。

プルダウンメニューより、「JPEG」または、「PDF」が選択できます。

6.7 JPEG 品質

出力画像のフォーマットで、「JPEG」を指定した場合の、JPEG 品質の指定です。

「90」、「85」、「80」、「70」から選択できます。

数値が大きいほど高画質です。数値が小さいほどファイルサイズを小さくすることができますが、若干画質が低下します。

6.8 PDF 解像度

出力画像のフォーマットで、「PDF」を指定した場合の、PDF の解像度の指定です。

「400 DPI」または、「300 DPI」から選択できます。

6.9 回転

出力画像を回転することができます。

「回転しない」、「右に90度」、「左に90度」、「180度」から選択できます。

6.10 命名規則変更

検査機器から出力されるファイル名を、電子カルテやファイリングシステムで扱いやすいファイル名に変更することができます。

「入力ファイル命名規則」と、「出力ファイル命名規則」の組み合わせで指定します。

例えば、検査機器から出力されるファイル名が

名前_性別_誕生日_患者 ID_検査日_検査時刻_左右眼_検査モード_機器 ID_連番.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_検査日_検査時刻_左右眼_検査モード_連番.jpg

に変換したい場合、次のように指定します。

入力ファイル命名規則

[NAME]_[GENDER]_[BIRTH]_[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[CODE]_[NO]

出力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[NO]

このように、各タグを [タグ名] で表現します。

タグ名は、任意の名称を付けられます。(全角文字は不可。半角英数字のみ)

区切り文字(上記の例では「_」)は、そのまま記述します。

[]で囲まれていない文字は、そのまま完全一致するものとし、一致しない文字が現れると次のタグに相当するデータだと判断します。

各タグのデータ長を指定することもできます。タグ名の後に「:」に続けて文字数を指定します。

詳しくは、後述するサンプルをご参照ください。

また、「入力ファイル命名規則」「出力ファイル命名規則」ともに空白の場合、ファイル名の変換を行わず、入力されたファイル名で出力します。

タグには、予約されている特殊なタグ名があります。

予約文字	意味
\$YYYYMMDD	現在の年月日に変換します。例) 20221109
\$YYYY	現在の年月日に変換します。例) 2022
\$YY	現在の年の下二桁に変換します。例) 22
\$MM	現在の月に変換します。例) 11
\$DD	現在の日に変換します。例) 09
\$hhmmss	現在の時分秒に変換します。例) 10:40:32
\$hh	現在の時に変換します。例) 10
\$mm	現在の分に変換します。例) 40
\$ss	現在の秒に変換します。例) 32

例えば、一眼レフカメラで撮影した写真を電子カルテに送りたい場合を想定します。一眼レフカメラが付与するファイル名には、

DSC_XXX.jpg (XXXX は連番)

のように、ID 等の検査情報や、日時などが全く含まれていないものがあります。

このような場合、「入力ファイル命名規則」として、

DSC_[NUMBER]

と設定し、「出力ファイル命名規則」として、

999999_[YYYYMMDD]_[hhmmss]_N_OTH_[NUMBER]

とすれば、患者 ID は固定の 999999 になりますが、日付、時刻が付与され、管理しやすいファイル名に変換することができます。

6.11 命名規則の設定例

例 1 (名前を省いて、検査種別と左右眼を入れ替えたい場合)

検査機器からのファイル名が

患者 ID_名前_撮影日_撮影時刻_検査種別_左右眼_連番.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_撮影日_撮影時刻_左右眼_検査種別_連番.jpg

に変換したい場合：

入力ファイル命名規則

[ID]_[NAME]_[DATE]_[TIME]_[MODE]_[EYE]_[NUMBER]

出力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[NUMBER]

実際のデータの結果

12345_yamada_20221125_132743_RETI_OD_001.jpg

↓

12345_20221125_132743_OD_RETI_001.jpg

例 2 (出力日、出力時間、検査 ID が不要な場合)

検査機器からのファイル名が

患者 ID_検査日_検査時刻_左右眼_検査種別_出力日_出力時刻_検査 ID_連番.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_検査日_検査時刻_左右眼_検査種別_連番.jpg

に変換したい場合：

入力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[OUT_DATE]_[OUT_TIME]_[MACHINE]_[NUMBER]

出力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[NUMBER]

実際のデータの結果

12345_20221125_132743_OS_COLOR_20221125_132750_54421B_001.jpg

↓

12345_20221125_132743_OS_COLOR_001.jpg

例 3 （日付時刻の形式が ISO8601 の場合）

検査機器からのファイル名が

患者 ID-名前-撮影年-撮影月-撮影日 T 撮影時_撮影分_撮影秒 Z-機種名-モード-フィールド.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_撮影日_撮影時刻_モード_フィールド.jpg

に変換したい場合：

入力ファイル命名規則

[ID]-[NAME]-[YY]-[MM]-[DD]T[hh]_[mm]_[ss]Z-[MACHINE]- [MODE]-[FIELD]

出力ファイル命名規則

[ID]_[YY][MM][DD]_[hh][mm][ss]_[MODE]_[FIELD]

実際のデータの結果

12345-yamada-2022-01-25T13_15_34Z-retinal-UWF-0.jpg

↓

12345_20220125_131534_UWF_0.jpg

例 4 （日付と時刻の文字列を分離したい場合）

検査機器からのファイル名が

患者 ID_名前_撮影日_撮影時刻_検査種別_左右眼_連番.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_撮影日_撮影時刻_左右眼_検査種別_連番.jpg

に変換したい場合：

入力ファイル命名規則

[ID]_[NAME]_[DATE:8][TIME:6]_[MODE]_[EYE]_[NUMBER]

出力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MODE]_[NUMBER]

実際のデータの結果

12345_yamada_20221125132743_RETI_OD_001.jpg

↓

12345_20221125_132743_OD_RETI_001.jpg

例 5 （日付と時刻の区切りが@且つ左右眼と連番の区切りがない。）

検査機器からのファイル名が

患者 ID_撮影日@撮影時刻_左右眼連番.jpg

となっていた場合に、出力するファイル名を

患者 ID_撮影日_撮影時刻_左右眼_連番.jpg

に変換したい場合：

入力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]@[TIME]_[EYE:1][NUMBER]

出力ファイル命名規則

[ID]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[NUMBER]

実際のデータの結果

12345_20221125@132743_L001.jpg

↓

12345_20221125_132743_L_001.jpg

6.12 実際の検査機器の入力ファイル命名規則のサンプル

検査機器の中でも、特に命名規則が複雑なものの設定例を用意しました。

- 1) Zeiss 社製 広角眼底カメラ Clarus

[NAME1]_[NAME2]_[ID]_[BIRTH]_[GENDER]_[COLOR]_[MODE]_[DATE:8][TIME:6]_[EYE]
[EXP][CLK]_[NUM]

- 2) Zeiss 社製 視野計 HFA3

[NAME]_[DATE]_[TIME]_[EYE]_[MACHINE]_[MODE]_[ID]

- 3) Center Vue 社製 広角眼底カメラ eidon

[ID]_[NAME1]_[NAME2]_[YY]-[MM]-[DD]T[hh]_[mm]_[ss]Z-[MODEL]-[EYE]-[POS]-[COLOR]-
[YY2]-[MM2]-[DD2]T[hh2]_[mm2]_[ss2]Z-[YY3]-[MM3]-[DD3]T[hh3]_[mm3]_[ss3]Z-
[MODE1]-[MODE2]

- 4) Optos 社製 広角眼底カメラ California

[ID]_[DATE]_[TIME:6][Milli]_[NUMBER]_[EYE]_[MODE]

- 5) Optos 社製 広角眼底カメラ Daytona

[ID]-[DATE]@[TIME]-[EYE:1][NUMBER]

- 6) TOPCON 社製 OCT

[ID]_[DATE]_[TIME]_[MODE]_[EYE]_[NUMBER]

- 7) Canon 製 OCT

[ID]_[DATE]_[TIME]_[MODE]_[EYE]_[MODE2]

7. 設定確認

現在設定されている内容を確認します。
画面上部のタブで「設定確認」に切り替えます。

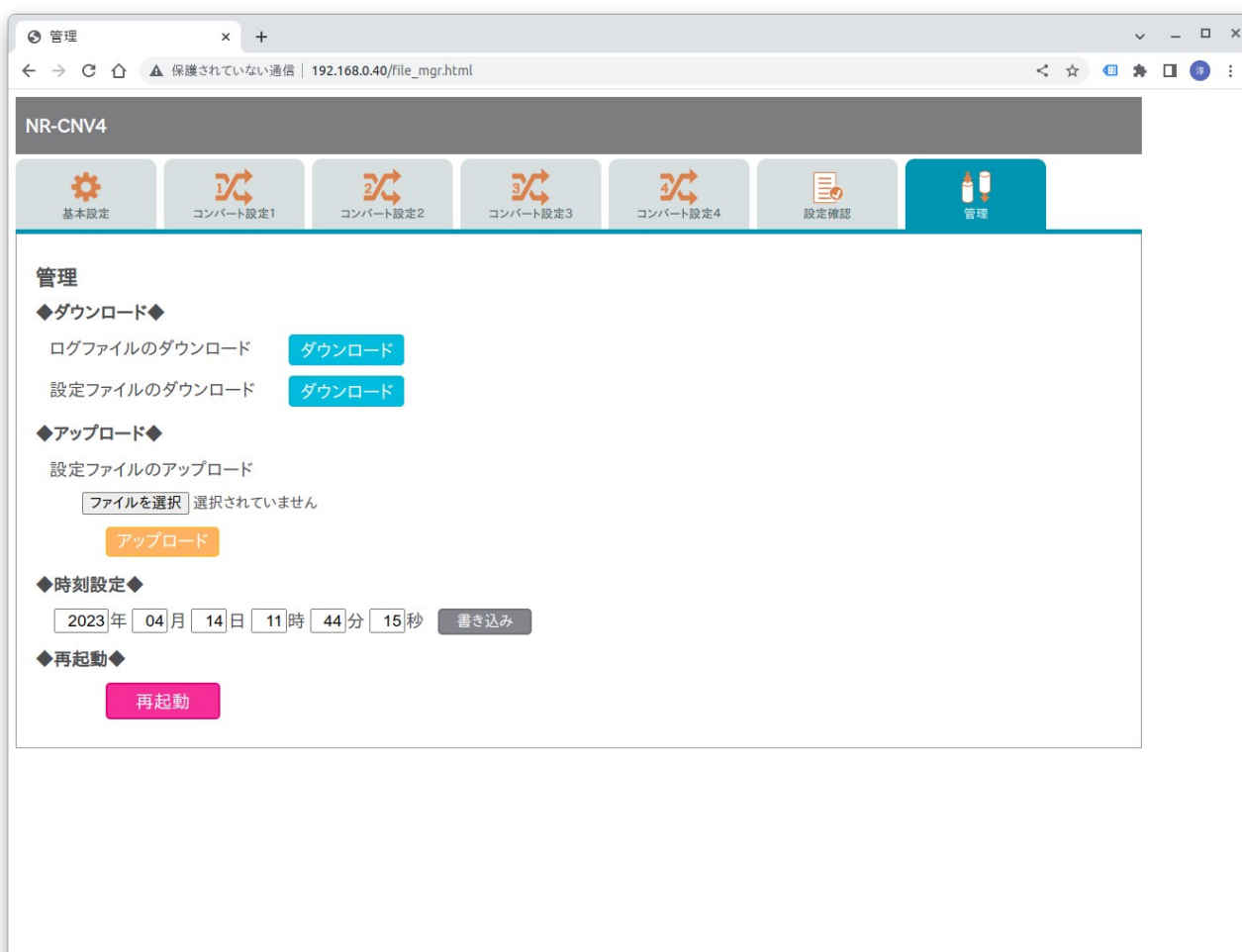


画面左のリストから、「基本設定」、「コンバート設定1」～「コンバート設定4」を切り替えて確認することができます。

8. 管理

「管理」ページでは、ログファイルのダウンロードや、設定ファイルをダウンロード（バックアップ）／アップロード（復元）が行えます。

また、本体の時刻設定や再起動もできます。



8.1 ログファイルのダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックすると、PC にログファイルをダウンロードすることができます。エラーが発生した場合の原因調査に役立ちます。

また、ログファイルを弊社に送っていただくことにより、トラブルの解析を行うことも可能です。

8.2 設定ファイルのダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックすると、PC に設定ファイルをダウンロードすることができます。設定ファイルのバックアップとしてご利用ください。

8.3 設定ファイルのアップロード

「8.2 設定ファイルのダウンロード」でダウンロードした設定ファイルをアップロードします。データの復元に利用できます。

あるいは、弊社で設定した設定内容をお送りして、本機の設定を更新することができます。

「ファイル選択」ボタンで、アップロードしたいファイルを選択し、「アップロード」ボタンをクリックします。

8.4 時刻設定

本機の時刻を設定します。

「基本設定」のページで、NTP を使用する設定の場合は、自動的に時刻を合わせますが、NTP を使用しない場合は、手動で合わせてください。

8.5 再起動

本機を再起動します。

再起動には30秒ほど必要です。

9. 運用

初期設定が完了したら、院内 LAN に接続してください。

通常の運用では、本機に対して、特別な操作は必要ありません。

電源を入れた状態で、連続稼働可能です。

検査機器からの画像を、本機の「ファイル受信フォルダ」に出力してください。

画像を受け取ると、自動的に所定のコンバート処理を行い、「ファイル転送先フォルダ」に出力し、一連のコンバート処理を完了します。

「ファイル転送先フォルダ」に接続できない場合、ビープ音が鳴り、本機前面の T1～T4 の該当する LED が赤く点灯します。

約15秒の間、赤い LED が点灯した後、出力できなかったファイルを削除してエラーを解除し、次の転送に備えます。

ファイル命名規則が不一致、もしくはルールを解釈できない場合も同様にエラーとなります。

10. FAQ こんな時は

10.1 初期設定時

- ① 設定用 PC の Web ブラウザで、本機の設定画面に接続できない。
- ・ Web ブラウザのアドレスバーに、本機の IP アドレスが正しく入力されているかご確認ください。
本機の工場出荷時の IP アドレスは、192.168.11.5 です。
 - ・ 設定用 PC の IP アドレスが、本機の IP アドレスと同一セグメント上にあるかご確認ください。
本機の工場出荷時の IP アドレスは、192.168.11.5 ですので、設定用の PC の IP アドレスは、192.168.11.10 など、192.168.11.XXX (XXX は、5以外の 1～254までの値)である必要があります。
 - ・ 設定用 PC から、本機に ping が疎通するかご確認ください。
 - ・ 本機に既に何らかの設定を行っている場合、本機の IP アドレスが変更されている場合があります。変更後の IP アドレスを、Web ブラウザのアドレスバーに正しく入力してください。
万が一、変更後の IP アドレスがわからなくなった場合は、本機を工場出荷状態にリセットすることができます。本機背面のリカバリースイッチを3秒ほど長押しすると、リセットされます。
リセット後の IP アドレスは、192.168.11.5 に戻ります。

- ② 再起動後、Web ブラウザから本機に接続できなくなった。
- ・ 本機の IP アドレスを変更した場合、再起動後、本機の IP アドレスが、設定したアドレスになります。
その為、設定用の PC の IP アドレスも、本機の新しく設定した IP アドレスと同じセグメントとなるよう設定変更が必要です。
 - ・ 本機が正常起動しているかご確認ください。
再起動後、正常稼働までに約1分必要です。
本機前面の PWR の LED が青く点灯しているかご確認ください。
 - ・ 再起動後、本機前面の PWR の LED が赤く点灯している場合、IP アドレスの設定を間違えています。 本機背面のリカバリースイッチを3秒ほど長押しして、工場出荷時に戻し、再度、正しく初期設定してください。

10.2 運用時

- ① 本機起動後、前面の PWR LED が赤く点灯している。
本機の IP アドレスの設定を間違えています。
本機背面のリカバリースイッチを3秒ほど長押しして、工場出荷時に戻し、再度、正しく初期設定してください。
- ② 検査機器から本機にデータを送れない。
- ・ 検査機器のデータの出力先が、正しく本機の公開フォルダとなっているかご確認ください。
 - ・ 検査機器から本機の公開フォルダに正しく接続できているかご確認ください。本機の公開フォルダは、ユーザー名／パスワード不要のゲスト接続となっています。OS の環境によっては、ユーザー名／パスワードを必ず求めてくる場合があります。その場合は、任意のユーザー名／パス

ワードで接続できます。

検査機器の中には、個別のユーザー名とパスワードが設定されていないフォルダには接続できないものがあります。その場合は、その検査機器に都合のいいユーザー名／パスワードを、本機の公開フォルダに設定することができます。「6.3 ファイル受信フォルダ」をご参照ください。

③ 本機から、電子カルテ／ファイリングシステムにデータが出力できない。

- ・ 初期設定の「ファイル転送フォルダ」が正しく設定されているかご確認ください。

転送先は、必ず IP アドレスで指定してください。

- ・ 電子カルテ／ファイリングシステム側の共有フォルダが正しく公開されているかご確認ください。

接続の際、ユーザーを限定している場合は、本機の「ファイル転送先フォルダ」に、接続に必要なユーザー名とパスワードを登録してください。

④ 本機のブザーが鼓動し、前面の LED (T1～T4) が赤く点灯している。

- ・ 本機から、電子カルテ／ファイリングシステムの公開フォルダに接続できない可能性があります。LAN が正しく接続されているか、電子カルテ／ファイリングシステムは正常に起動しているかご確認ください。
- ・ 検査機器から送られてきたデータのファイル名が、初期設定で登録した入力ファイル命名規則のルールに合致していない可能性があります。
- ・ 初期設定で登録した入力ファイル命名規則のルールと、出力ファイル命名規則のルールがマッチしていない可能性があります。
- ・ 検査機器から、本機で扱えないデータが出力された可能性があります。

10.3 その他

- ① エラーが出ているが、原因が特定できない。
 - ・ 本機のログをダウンロードしてエラーの詳細を確認することができます。
「8.1 ログファイルのダウンロード」をご参照ください。
必要に応じて、ダウンロードしたログファイルを弊社に送付いただければ、
詳細な解析が可能です。

免責事項

- ・ 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- ・ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、購入された製品とは一部異なることがあります。
- ・ 本製品は、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び 高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災 事故、社会的な損害、財産の消失などが生じても、当社ではいかなる責任も負いません。
- ・ 本製品の使用により、人身事故、火災事故、財産の消失、社会的な 損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いません。
- ・ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品 に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。
- ・ 本製品に改造・改変・改良が加えられた場合、それにより生じた不具合、あるいは人身事故、火災、事故、社会的な損害、財産の消失などが生じても、当社ではいかなる責任も負いません。
- ・ 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、ご連絡ください。

お問い合わせ

NEKORISU

株式会社 NEKORISU

愛媛県松山市竹原2丁目16-2 アルファステイツ竹原8 F

TEL: 050-8806-9823

Mail: sales@nekorisu-embd.com